

幸手市

郷土資料館ニュース

秋号



企画展紹介

「幸手の板碑」

令和3年10月16日（土）まで開催中
郷土資料館 歴史資料展示室 特別展・企画展示エリア



郷土資料館が所蔵する板碑を展示しています。“中世幸手”の歴史や、その時代に生きた人々の信仰を伝える貴重な資料を、ぜひご覧ください。

特別展予告

「オルガンと幸手町の郷土誌—高橋浅次郎が遺した資料—」

令和3年10月26日（火）から令和4年1月30日（日）
郷土資料館 歴史資料展示室 特別展・企画展示エリア

高橋浅次郎が遺した「郷土誌稿」などの資料を中心に、当時の幸手町で行われた郷土誌編さんの概要を紹介します。また、高橋家に伝えられた古いオルガンをはじめ、浅次郎ゆかりの資料のほか、浅次郎自身もその活動に深く関わった「幸手町教育会」の文化的事業の成果についても紹介します。

特別展記念講演会

「明治末期の郷土誌編さんと幸手」

開催日時 令和3年11月23日（祝・火）午後1時半から午後3時半
講師 重田 正夫（しげた まさお）氏 埼玉県地方史研究会会長
申し込み 11月9日（火）午前9時から電話申し込み（先着30名）

市史講座

「中川低地の生い立ち—縄文海進の残した地層と地震災害の種類—」

開催日時 令和3年11月27日（土）午後1時半から午後3時半
講師 平社 定夫（ひらこそ さだお）氏
理学博士
春日部市史編さん委員会委員 兼 春日部市文化財保護審議会委員
申し込み 11月9日（火）午前9時から電話申し込み（先着30名）

※新型コロナウイルス感染拡大状況によって、内容は変更する場合があります。

裏面へつづく⇒

収蔵品紹介 ～郷土の宝物～

板 碑 (いたび)

鎌倉時代から戦国時代にかけてつくられた石造物です。特に南北朝時代(1336～1392年)に多くつくられていました。

亡くなった人を弔(とむら)うためや、造立者自身の極楽往生(ごくらくおうじょう)を願ったもので、市域ではこれまでに約140点確認されています。

板碑には様々な図像や文字が刻まれているため、文献資料が少ない中世の歴史を考える上で、貴重な資料となります。



古代インドで使われた サンスクリット文字



阿弥陀仏(あみだぶつ)を表す文字で「キリーク」と読みます。この他にも「釈迦(しゃか)」「観音菩薩(かんのんぼさつ)」「勢至菩薩(せいしほさつ)」など様々な種類の文字があります。

室町時代の板碑
(応永24年(1417))

板 碑 の か た ち



厚さ2～3cmの板状で、頭部の先端は山形になる



長さは数10cmから1mほど

土台に差し込むため下部はとがっている



幸手市郷土資料館

住 所： 幸手市大字下宇和田 58 番4

電 話： 0480-47-2521

開館時間： 午前9時から午後5時

休 館 日： 月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)

アクセス方法など詳しい情報はこちらで
ご確認ください。

